

令和二年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

「税に関する高校生の作文」

奈良県立大淀高等学校 一年 今阪 依舞己

私は、小さいころから買い物をしてきて、私が始めて一人で買い物をした時は、税金が三パーセントの時です。その時は、百円ショップで一つ物を買った時に税金を知らなかった私は「百円ショップだから一つの物を買うと百円になるんだ。」

とっていました。でも、いざレジに並ぶと百円じゃなくて、百三円とお店の人に言われてビックリしたのを覚えています。その時は、「なぜ？」

と事しか思いませんでした。そうして、お母さんに

「なぜ百円じゃなかったの？」と聞くとお母さんは

「税金といって何か物を買ったら国にお金を払わないといけないんだよ。」

と教えてもらって初めて、税の事を知りました。

そして、だんだんと消費税が三パーセントから五パーセント、そして八パーセント、今では十パーセントにまで消費税が上がっていき、そのたびにいつも

「もう消費税なんかなくなったらいいのに」

とっていました。

しかも、今では食べる物は、八パーセント、服などの物である場合は十パーセントとややこしくなっています。

でも、もしも消費税がなくなったらどうなるのかと調べてみました。そしたら、私たちが納めた税金は、みんなが安全、快適に暮らせるように公共施設や、さまざまなサービス、学校などに使われていることがわかり、じゃあ、もし税金がなかったらどうなるのか調べたところ、今まで当たり前だったことができなくなって、困ってしまう事がたくさんある事が分かりました。例えば、火事になっても消防車が来ず、火を消せなくなったり、急病人がいるのに、救急車をよんでも来ない。ごみ収集がないので、町がごみだらけになったりします。なぜなら、消防車、救急車、ごみ収集をする人たちは、全員税金で支払われているからです。その他にも、水道の水が飲めなくなったり、市バスや地下鉄が走らなくなったり、みんなが遊ぶ公園の遊具が壊れても修理できないなど、他にも困りことがたくさんあります。

なので、これらの調べた内容を見ると、税金は意味なく使っているのではなく、税金がなくなると困る事がたくさんある事が分かります。

でも、最近ではどんどん税金が上がっていっているの、いつかもしかしたら税金が二十パーセントになったりするののかという不安もあります。なので、そうならないためにも、あらゆるところでちょっとした節約などをちよつとずつ積み重ねていったら、そうならないかもしれないので一人一人が節約する事を心掛けなければと思います。